

岩手県建設業企業年金基金だより

(令和5年6月19日号)

●令和4年度年金資産運用結果

インフレ率の高止まりから欧米中央銀行が急速に利上げを実施したことにより、外国債券利回りが上昇し、利上げによる景気後退懸念から外国株式は下落しましたが、為替の大幅な円安によって、マイナス収益にはならなかったものの、国内債券は外国債券利回りの上昇に連れて利回りが上昇したことに加えて、日銀が金融緩和政策の修正を行い10年国債利回りの許容変動幅を±0.5%に拡大したことにより、更に利回りが上昇したことを受けて、総合収益は▲266万円となりました。(各資産の状況は裏面に記載)

修正総合利回りは▲1.17%と目標収益率1.5%に対して、2.67%下回る結果となりました。

なお、令和5年3月末の時価総額は23,748万円と前年に比べて2,397万円増加しました。

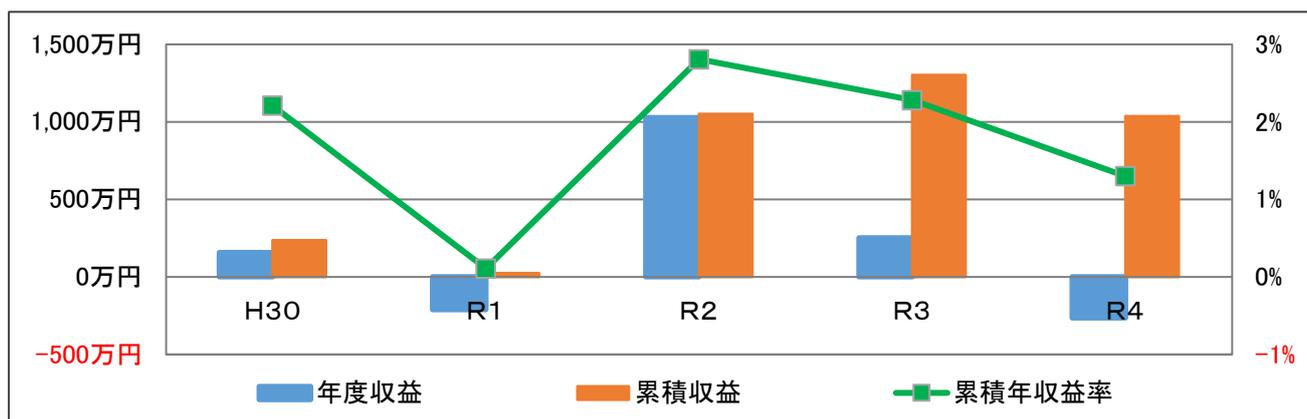
	総合収益	修正総合利回り	時価総額	構成比	基本アセットミックス	乖離幅
基金合計	▲266万円	▲1.17%	23,748万円	100.0%	100%	
国内債券	▲463万円	▲2.93%	10,807万円	45.5%	45%	0.5%
一般勘定	11万円	0.15%	7,082万円	29.8%	30%	▲0.2%
国内株式	146万円	6.23%	2,896万円	12.2%	11%	1.2%
外国債券	▲10万円	▲0.94%	1,084万円	4.6%	5%	▲0.4%
外国株式	50万円	2.60%	1,874万円	7.9%	9%	▲1.1%

●基金設立以来の運用実績

基金設立以来の総合収益の累計額は+1,037万円となりました。年率の修正総合利回りは+1.3%となっています。

過去5年間の運用実績

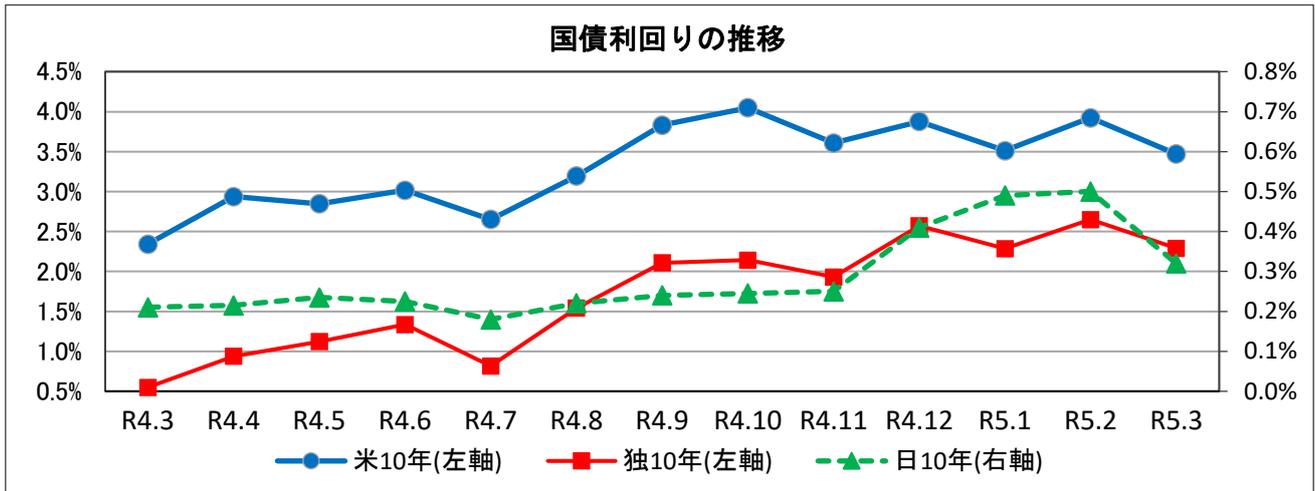
	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	累計
総合収益	158万円	▲212万円	1,028万円	251万円	▲266万円	1,037万円
修正総合利回り	2.09%	▲1.81%	6.84%	1.28%	▲1.17%	1.30%



●令和4年度の市場状況

国内債券…10年国債利回りは、年度前半は海外の債券利回りの上昇を受けて利回り上昇圧力が強まる中、日銀が許容する0.25%を上限に推移しました。12月の日銀の金融政策決定会合で許容変動幅を0.5%へ拡大されたことにより利回りが上昇しましたが、米国の銀行破綻から金融不安が高まり、外国債券利回りが低下すると、連れて利回りが低下しました。

外国債券…米10年国債利回りは、年度前半は利上げによる景気減速が懸念される中でもインフレの抑制を最優先に利上げを続けたことから利回りが上昇しました。年度後半は、インフレ率の伸びが減速し、利上げ幅が縮小したことや米国の銀行破綻を契機にリスク回避姿勢が強まったことから低下しました。



国内株式…年度前半は一進一退の展開となったものの、年度後半は米国でインフレ懸念が後退し利上げペースの減速が示されたことなどから上昇しました。

外国株式…年度前半は欧米でのインフレ加速を受けて中央銀行が金融引締めを進めたことや一部企業の決算が悪化したことから大幅に下落しました。年度後半は米銀行の破綻から一時下落する場面もありましたが、金融当局の迅速な対応や将来的な利下げ期待が高まり上昇に転じました。

為替…日銀の金融緩和政策の修正により、一時円高となる場面もありましたが、高インフレを背景に欧米が大幅な利上げを実施する一方、日銀は金融緩和を維持したことから、円安が進行しました。

